

目標2 2050年までに、超早期に疾患の予測・予防をすることができる社会を実現

ウイルス-人体相互作用ネットワークの理解と制御

ここから、新・未来へ



Project manager

松浦 善治

大阪大学 感染症総合教育研究拠点 拠点長 / 微生物病研究所 特任教授



代表機関

大阪大学

研究開発機関

大阪大学、株式会社エビデント、九州大学、京都大学、群馬大学、慶應義塾大学、千葉大学、東京大学、徳島大学、長崎大学、名古屋大学、北海道大学、山梨大学、理化学研究所

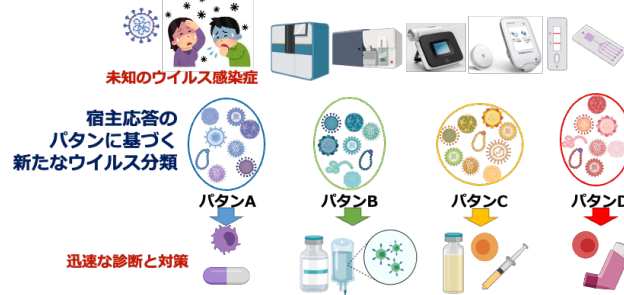
プロジェクト概要

ウイルスと人体の相互作用ネットワークを包括的に理解し、そのパターンを分類整理することにより、未知のウイルス感染症に対しても有効な診断・予防・治療法を先制的に準備します。それにより、2050年には、ウイルス感染症の脅威から解放された社会の実現を目指します。

2030年までのマイルストーン

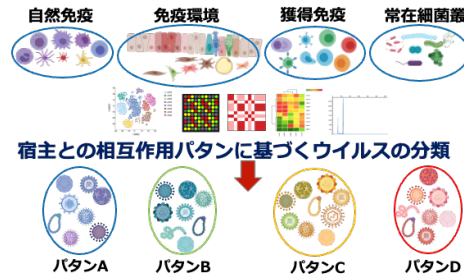
未知のウイルスが現れても、感染後超早期に最適な治療法を開始することで感染症流行を未然に防ぎます。具体的には、ウイルス感染後の生体反応データに基づく数理モデルにより定義した新たなウイルス分類に応じて、ウイルス感染後の生体反応を超早期に検出するバイオマーカーを同定し、各分類に最適な予防法・検出法・診断法を開発します。

未知のウイルスにも有効な診断・治療法の開発



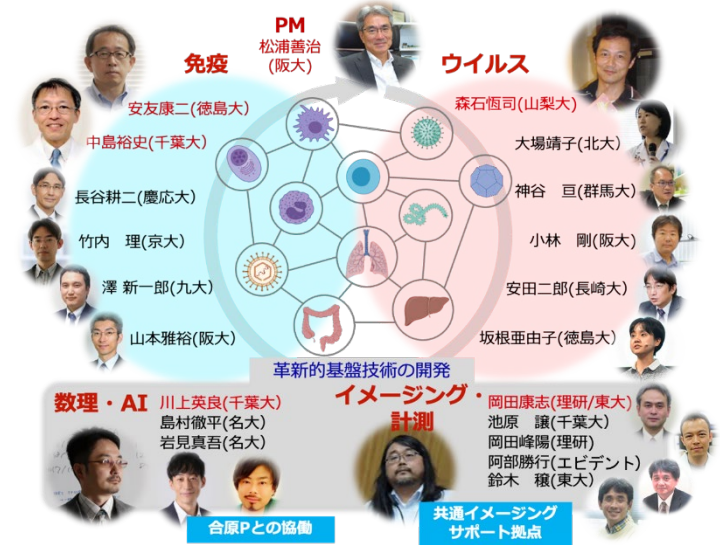
2025年までのマイルストーン

ウイルス感染の早期診断法と有効な予防・治療法の開発に向け、ウイルスを生体反応により新しく分類し、体系化を行います。



プロジェクト内の研究開発テーマ構成

研究開発プロジェクト推進体制



実験を担当する研究者と数理科学の研究者が事前によく相談し、数理解析に必要なデータを集める

